「静脩」に関するアンケートの集計

静脩がどのように読まれ，どれだけ関心を持たれているかを調べ，編集の参考にするため実施したアンケートの集計がでたので，報告してみたい。

調査はアンケート対象を教官・学生・職員（図書館職員）の三層に分け，11月下旬に実施。それぞれの10%，教官220人，学生1,370人，職員27人にアンケート用紙を無作為に配布し，教官155人（回収率70.5%），学生1,029人（回収率75.1%），職員27人（回収率100%）の回答を得た。調査結果は次の通り。

〔静脩を読んだことがありますか〕

	教官	学生	職員
ない	23%	47%	7%
ある	77	53	93
計	100	100	100

〔「ない」と答えた人はその理由〕

	教官	学生	職員
知らなかった	56%	79%	%
手に入らない	19	8	100
興味がない	17	9	
その他		2	
無回答	8	2	
計	100	100	100

まず静脩の認知度についてみると，教官87%，学生62%，職員100%の人が，静脩が発行されていることを知っている。そのうち静脩を読んでいる人は表の通りで，学生でも過半数の人が読んでおり，「読んでいない」と答えた人に，その理由を聞いてみると，「知らなかった」というのが5割以上で，特に学生については79%が知らなかったと答えている。学生に対する静脩のPRが，いかに不足しているかを示している。

〔読みかたについて〕

	教官	学生	職員
Ⅰ いつも読む	36%	11%	64%
ときどき読む	33	34	20
たまに読む	28	53	8
無回答	3	2	8
計	100	100	100
Ⅱ すみずみまで読む	9	11	24
興味のある記事だけ読む	76	80	60
その他	1	3	
無回答	14	6	16
計	100	100	100

次に閲読の習慣については，学生が教官，職員に比べて，「いつも読む」が11%と少ないのは静脩が常時手に入らないということ，すなわち学生に対する配布枚数が少ないということがわかる。静脩を読んでいる人は数字の上では52%になっているが，手に入ったとき，たまに一，二度読んだという人がかなりある。熟読度については，ほとんどの人が興味のある記事だけ読んでおり，館報的性格のものは，すみからすみまで読まれるというものではないことを示している。

〔よく読む記事〕　（多答質問）

	教官	学生	職員
巻頭言	69%	50%	72%
図書館(室)めぐり	31	33	72
資料紹介	48	13	36
利用案内	26	26	12
利用者の声	21	22	56
展示会・催物案内	15	24	20
諸統計	18	9	8
その他	2	2	12
無回答	6	7	0

それではどんな記事がよく読まれているかという関心閲読（主読対象）についてみると，「巻頭言」「図書館（室）めぐり」

がよく読まれている。教官と学生の異るところは，資料紹介が教官にはよく読まれているが，学生にはそれほど読まれていない。資料紹介の対象が教官になっているといえる。職員の過半数の人が「利用者の声」を読んでいるのは，利用者の要求を知ろうとするあらわれである。展示会・催物案内が学生の24％の人に読まれているのは，肩のこらない，おもしろい読みもの的要素を望んでいるあらわれとも思われる。

次にこれ以外にどんな記事を望むかという質問に対して，学生は読書案内（新刊書紹介，書評，読書感想文といったもの）に関する記事が過半数，その外に，「図書の利用の仕方」，「図書館の新しいビジョン」「読みもの的なもの（興味のある記事）」という希望があり，教官は「資料紹介の充実（新刊書，稀覯書等の紹介，読書に関する記事，書評など）」が過半数で，その外に「図書館の新しいビジョン（図書館の理想像，図書館制度改革に対しての意見）」「資料の調べ方」についての記事という希望が多い。職員については「図書館（他大学を含む）事情の紹介」を希望している。

〔現在の静脩についてどう思いますか〕

	教官	学生	職員
今のままでよい	57％	31％	36％
わからない	16	40	36
あらためたほうがよい	12	17	20
無回答	15	12	8
計	100	100	100

さらに全体を通して静脩をどう思っているかという質問に対して，学生については30％以上，教官については57％の人が，今のままでよいと支持している。「あらためたほうがよい」とした人について，その意見を聞いてみると，枚数を増して，内容を充実というのが30％以上で，その外に主な意見をまとめてみると，学生は「事務的でかたくるしい，もっと興味があり，親しみのあるものに」「実益のあるものを充実」。教官は「目的をしぼり，性格をはっきりだす（情報活動に力点をおくなど）」。職員は「利用者と図書館側との意見疎通の方法を考えよ」という意見が多い。なかに「不要だ」という意見も二，三みられた。

まとめとして，予想していたよりはよく読まれているが，館報という性格上，ざっと読まれるものなので，本文は簡潔で，うるおいのあるものである必要がある。主読対象については，おもしろい記事（読みもの的要素）と実益のある記事（図書利用に役立つ）というように相反するようであるが，どちらも図書に関する記事を望んでいるということで一致している。そして図書館の将来ビジョとしては，利用者側の考え方と図書館側の考え方を通して，新しいものを打ち出していくことが必要である。

なお，学生に対しての静脩のＰＲと配布部数が少ないということ，ならびに，ページ数の少なさからくる内容の不充分さを考慮する必要がある。

あとがき　この一年は，京大の長い歴史においても，類を見ない激動の一年であったと言えば，大げさにすぎるであろうか。「雨降って地固る」という言葉もある。京大の新生と今後のより大いなる歩みを編集子も信じたい気持である。

最終号については，この一年の締めくくりとしてふさわしい内容を盛り込めたものと思っている。昨年ご協力いただいた「静脩」のアンケートの集計結果が出たので，簡単に報告しておいた。今後の編集に何かと参考になる点も多いと思われる。コンテンツ・シート・サービス一覧表，および資料紹介は，活用していただければ幸である。「一言・ふたこと」欄に寄せられた種々の貴重なご意見についての図書館側の考え方は不十分ながら示しておいたつもりである。なお図書の「時差受入」については，重ねてご協力をお願いしておきたい。次号より編集委員も新たに，よりよきものをと考えています。

京都大学附属図書館報「静脩」Vol. 5, No.6 （通号27号）1969年３月15日発行・編集発行人：
岩猿敏生　発行所：京都大学附属図書館・京都市左京区吉田本町・電代表771—8111（内線）2220～2238